

A1-1 如何表達讚許？

(阿KU篇：大学院生・場面は学校生活が中心)

【阿KU 先生に褒められる 能力】

A：阿KU B：先生

A：(課題を提出する)先生、課題です。(課題を両手で持ち、頭を下げる)

B：はい。ああ、よく出来ていますね。特に、この色がいいですね。

A：ありがとうございます。先生のご指導のお蔭です。

B：この調子で頑張ってくださいね。

A：はい。

自分の指導者など、目上の人に誉められた時には、その功績は、褒めた相手の協力による、という態度でお礼を述べる。

【阿KU 友達に褒められる 能力】

A：阿KU B：友達

B：阿KUさん、この間の課題、素晴らしかったね。

A：いやあ、まだまだ、気に入らないところが多くて…。

B：いや、本当によかったよ。

A：そう。ありがとう。

クラスメートなどに褒められたら、特別に親しい関係を除いて、謙遜したあと、お礼を述べる。

【阿 KU 友達に褒められる 服装】

A：阿 KU B：友達

A：おはよう！

B：おはよう！ あれ、すてきなシャツだね。

A：ほんとう？ ありがとう。この間、買ったんだ。

B：そう。よく似合っているよ。

本單元主要著重在「如何表達讚許」，然讚美與讚許牽涉層面廣泛，包含個人（家庭、親子）、團體（公司、部屬、學校、師生）、性別、年齡、場合、外觀、人格、能力、工作態度、觀點與立場等層面，因此無法一言以蔽之，也無法以單一層面說明清楚。不但如此，讚許也涉及到面對面的直接讚美與透過第三者的間接讚美。例如，第一課中的「美呆了！（すごく綺麗）」、「不容易啊！（すばらしいですね）」、「簡直是美到讓人停止呼吸！（なんてきれいなんだろう。胸が苦しくなる）」幾乎都是第三者的間接讚美。

前述三則對話都屬直接接讚美，並分別以老師讚許學生能力、朋友讚許朋友能力及朋友讚許朋友外在服裝，呈現不同的對話關係，但是當中卻看不到晚輩對長輩的讚許。的確，在日本文化中，晚輩直接讚許長輩能力如同禁忌一般，屬於失禮行為，必須避免。當然，如果勉強要向長上表達讚美之意時，盡量從能夠襯托長上能力的外在話題或隨身物品切入。再者，當受到老師或長輩讚許時，最好採用第一則會話的回應方式（先生のご指導のお蔭），盡量採取歸功於師長的態度，而受到朋友讚許能力時，最好也能保持謙虛，並表達感謝之意。